

吉田地区地域コミュニティ 事務局だより

平成26年7月 18 日

26 年度第 2 号

！！部会活動スタート！！

青少年育成部会

青少年育成部会は 26 年度事業を、22 年度からの継続事業として「あいさつ運動」を開始しました。7月1日(火)を皮切りに、9月2日より本格的にスタートし、来年3月17日まで毎週火曜日の7時30分より8時まで小中学校校門にて、小中学校 PTA 役員の協力をえて実施中です。一日中どこからでも誰からでも声が出る地域を目指して、住民の皆様も積極的に声をかけていただき、元気ある吉田にしましょう。



小学校の登校の様子



小学校の登校の様子



中学校の登校の様子

東京都練馬区(皿屋区出身)の宮崎 誠さん

菅原 文太さんとの対談が放送されます、ぜひ聴取ください。

26年8月10日(日)午前5時30分より

日本放送 1242 ヘルツ

「尊い犠牲の上に今の平和がある」

「いのちはどこにありますか？硫黄島 父からの手紙と母のノート」この本は吉田公民館にあります

東京新聞 2014年(平成26年)5月5日(月曜日) ©中日新聞東京本社2014 (三)

硫黄島から子思う

激戦地帰らぬ父が送った42通

太平洋戦争末期の激戦地、硫黄島(東京都小笠原村)で戦死した兵士が、家族に宛てた四十二通の手紙が見つかった。敵しさを増す戦況の中、子を思う父親の愛情が伝わっていた。兵士の長男で、練馬区の宮崎誠さん(65)は「尊い犠牲の上に今の平和がある。いま一度考えてほしい」と願いを込め、手紙を一冊にまとめて出版した。

(松村裕子)

長男が命日に出版「平和は尊い犠牲の上に」

父宮崎さんは太平洋戦争に出征し、一九四五年三月に玉砕した硫黄島守備隊の一員として、三十四歳で戦死した。当時、誠さんは六歳の長男で、父の記憶はほとんどない。

硫黄島から届いた父の手紙は二〇〇六年、母ハルさんの遺品整理で見つかった。ハルさんが九十歳で亡くなった三年後のことだ。四四年四月ごろから四五一年一月ごろに書かれたものらしい。父の自筆は一通だけだったが、残りの四十一通分を、母が一冊のノートに書き写していた。

唯一の自筆の手紙は、四年十一月十九日付だった。誠さんの弟が三歳で病死したとき、父が知ったとまで。

「床に就いて眠らんとしても眠る能はず、慟哭し枕涙に濡れあかす。無念さ切々と泣かれていた。誠さんは手紙を見つけた翌年、かつて母がしたのと同時に、手紙を自分で書き写そうと思った。

「よく誠ちゃんの夢を見ます。母ちゃんのいつかをよよく聞いて丈夫に賢い子供に育つてほしいの絵や書いよかけられたので、みんなも皆上手に書けたので、誠さんに高く褒めたい。誠さんには直接言えなかったが、短くて男のほくそ期待してんだな。筆写は僕も中断し、すべて君に一月余かかった。硫黄島での過酷な死は二年前、父で、金のかわらない送ってほしいと書いての思い出し、故郷の豆を供えた。」「四十通はこれに宛てた私宛だが、残したいと強ら思っていた。誠さん、今年十月父の命日に出版したいの(おぼろげ)に、いのちをいかに守るか。硫黄島、父からと母のノート(文芸別冊114頁)」。この本、争や命とは何かを考へて話して

東京新聞東京本社 東京千代田区内幸町二丁目1番1号 100-8505 電話 03-6910-2200 FAX 03-3595-693

五音 料理のかくし味でも大好評!

紙面について
●電話 03-6910-2200 (土日祝日除く) 9:30~17:30
●FAX 03-3595-693
東京新聞ホームページ TOKYO We www.tokyo-np.co

本誌記者がツイッターでつぶやいて! 東京新聞政治部 東京新聞けいざい部 東京新聞写真部 東京新聞鉄道クラブ 東京新聞文化部